

津島出身の画家 横井照子さんに焦点

抽象画のルーツ 記録映画で迫る

国際的に活躍する津島市出身の画家横井照子さん(96)は、スイス・ベルン在住に焦点を当てたドキュメンタリー映画が、スイスで制作されている。現地に住む日本人ジャーナリスト里信邦子さんが発起人となり、横井さんが描く抽象画のルーツなどに迫っている。

(深世古峻)



①昨秋に里信さんがインタビューした際の横井さん。②スイス・ベルンで(里信さん提供) ③津島の風景が元となっている可能性のある「冬のハス」©Teruko Yokoi

ジャーナリスト里信さん中心に制作

ドキュメンタリー映画を制作している里信さん(里信さん提供)



美術史家としても活躍する里信さんは、ベルン美術館(スイス)で八月まで開催されている横井さんの個展のカタログ執筆を担当。昨秋に本人へインタビューした際、「横井さんの映像を残し、創作の秘密を明らかにしたい」と、映画制作への思いが直感的に沸き上がった。本人が創作活動を語る映像や、国際的な評価を得る抽象画の謎に迫った文章が、ほとんどないことも動機になった。

スイス人の若手映像作家らと組み、今年一月から制作をスタート

ト。映像は約五十分間の予定で、特別に入手した約八年前に米国人映画監督が撮影した未公開のロングインタビュー映像や、自身が行ったインタビュー映像などを盛り込む。横井さんの言葉や里信さんの考察を元に、作品でよくみられるひし形のモチーフの謎などに迫る。

また、映画では多感な時期を過ごした津島周辺の風景が、作風に影響を与えた可能性にも触れている。

ハスをモチーフにした抽象画「冬のハス」(一九五七年)について、里信さんは「制作時はニューヨークに住んでいたことなどから考えると、多感な時期を過ごした津島やその周辺にはハス池があったことから、その風景が反映されたのかもしれない」と推測した。横井さんもインタビューで「抽象に移行するとき、必ず日本の風景がある」と語っている。

横井照子 1924年名古屋市長生まれ。生後間もなく津島へ移り、津島高等女学校(現在の県立津島高校)を卒業。53年に抽象画を学ぶために渡米した。四季の情景や草花などを題材に、日本の伝統技法と西欧の絵画技術をミックスした抽象画で評価を得る。62年にスイス・ベルンへ移住。日本には岐阜県恵那市と静岡県富士市に作品の美術館がある。

映画は現在、編集の最中で、ベルン美術館で六月中旬ごろの上映を目指す。里信さんは「いずれは津島の方々にも映像を見ていただきたい」と語った。約二百万円制作費は、私費から多くを捻出しているため寄付を呼び掛けている。◎里信さん kunikoss@bluewin.ch